

授業科目：在宅看護論実習

科目目標：在宅で療養している療養者、家族を対象とした看護が理解できる。

行 動 目 標	内 容	方 法
<p>1 訪問看護を実施する施設の機能、役割が述べられる。</p> <p>2 療養者、家族の健康状態や生活状況をアセスメントし療養者、家族の療養上の問題と看護の方向性が述べられる。</p>	<p>1) 施設の概要</p> <p>(1) 理念・設置主体</p> <p>(2) 職員構成</p> <p>(3) 訪問看護導入から実施までの流れ</p> <p>(4) 訪問看護の対象と援助内容</p> <p>(5) 他機関との連携</p> <p>(6) 災害時の対応</p> <p>1) 療養者、家族の健康状態</p> <p>(1) 療養者の健康状態</p> <p>① 疾病の状況</p> <p>② 障害の程度</p> <p>③ 日常生活自立度（寝たきり度・認知症）</p> <p>要介護度</p> <p>(2) 受けている医療の状況</p> <p>① 病態、治療方針と予後</p> <p>② 医療処置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物管理 ・在宅酸素療法 ・人工呼吸療法（非侵襲的換気法を含む） ・膀胱留置カテーテル法 ・胃ろう・経管栄養法 ・在宅中心静脈栄養法 ・褥瘡管理 ・ストーマケア <p>(3) 家族の健康状態</p> <p>2) 生活状況</p> <p>(1) 日常生活の自立度</p> <p>(2) 1日の過ごし方</p> <p>(3) 療養生活に対する思い、希望</p> <p>(4) 住環境</p> <p>(5) 療養者と家族の発達課題</p> <p>(6) 経済状況</p> <p>(7) 予測される療養生活上の問題</p> <p>3) 家族の介護力</p> <p>(1) 知識、技術、意欲、理解力、疲労</p> <p>(2) 家族の協力関係</p> <p>4) 緊急時の体制</p> <p>(1) 医療</p> <p>(2) 生活支援サービス</p> <p>5) 社会資源の活用状況</p> <p>(1) 介護保険</p> <p>(2) 医療保険</p> <p>(3) 難病対策要綱</p> <p>(4) 障害者総合支援法</p> <p>(5) 療養者の権利擁護</p> <p>(6) インフォーマルなサービスの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設のオリエンテーションや実践活動外時間の情報共有で理解を深める。 ・実習期間中に2回以上訪問できる療養者1名を受持ち、看護過程を展開する。 ・受持ち以外の療養者に毎日同行訪問し、生活状況や必要な援助について理解を深める。 ・訪問事例に関する情報を収集し、訪問時の自己目標を明確にする。 ・機会があれば、終末期にある対象、難病、認知症、長期臥床状態、精神障害者、子どもの療養者の訪問に同行し、学習する。 ・訪問事例を通して緊急時の体制や社会資源活用の実際を学ぶ。 ・訪問実習を通して対象に合わせたコミュニケーション方法を学ぶ。

行 動 目 標	内 容	方 法
3 療養者、家族に必要な援助を理解し、見学または一部実施ができる。	1) 訪問時の対応とマナー 2) 日常生活援助の実施、見学 3) 医療処置に伴う援助の実施、見学 4) 社会資源の活用などの情報提供 5) 医療機器、衛生材料等の調達方法 6) 医療廃棄物の廃棄方法 7) リハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・療養者の個別性に応じた援助方法とその根拠を理解する。 ・訪問時に実施する援助は療養者、家族の状況に合わせて計画し、指導者・教員の助言・指導の下に実施・評価する。 ・同行訪問を通して訪問看護に必要な態度と姿勢を理解する。 ・療養者のカルテ、療養者・家族とのコミュニケーション、訪問看護師のケアを通して理解する。
4 関係機関、関係職種との連携や社会資源の活用方法が述べられる。	1) 社会資源に対する本人、家族の思い 2) 社会資源活用 (1)活用しているサービスの制度、導入方法 (2)ケアマネジメント (3)地域包括ケアシステム (4)連携、協働する関係機関、関係職種 3) 関係機関との連携の実際 (1)退院調整・退院支援 (2)サービス担当者会議 (3)電話、FAX、電子媒体他	<ul style="list-style-type: none"> ・機会があればケースカンファレンスへの参加や訪問事例をとおして理解する。 ・実践活動外学習で同行訪問事例の学びを共有する。
5 生活を支える訪問看護師と多職種の役割が述べられる。	1) 訪問看護師の役割 2) 多職種の役割 3) 療養者、家族を支援するチームアプローチの実際	
6 在宅における危険予測と安全管理について述べられる。	1) 安全な療養環境 2) 危険の予測と安全を守るための療養者・家族への支援 転倒・転落 誤嚥・窒息 感染 チューブトラブル 誤薬 虐待	<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動外学習で在宅における安全についてカンファレンスで検討する。

授業科目：在宅看護論実習

科目目標：在宅療養を支える施設における看護が理解できる。

行 動 目 標	内 容	方 法
1 地域における施設の機能と役割が述べられる。	1) 施設の概要 (1)設置目的・設置主体 (2)職員構成と役割 (3)サービス内容 ①デイケア ②ショートステイ ③入所 (4)利用までの手続き (5)地域の特徴と関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・重症心身障害児(者)の医療と福祉についてオリエンテーションや実習を通して理解する。
2 施設の利用者と家族の生活状況が述べられる。	1) 利用目的、利用状況 2) 利用者の日常生活自立度 3) 利用者と家族の生活への支援 (1)相談 (2)日常生活への支援 (3)情報提供 (4)ケアマネジメント	
3 利用者に必要な援助が述べられる。	1) 利用者の健康状態のアセスメント 2) 日常生活動作と安全・安楽・個別性に配慮した援助 (1)食事 (2)排泄 (3)清潔 (4)コミュニケーション (5)活動と休息 3) 医療処置に伴う援助の実施、見学 4) 生活を豊かにする援助 (1)レクリエーション (2)個別プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・受け持ちを持たずに指導者の指導の下で実習を行なう。 ・利用者に積極的に関わり、言語的・非言語的コミュニケーションの理解と工夫を行う。
4 利用者に関わる多職種とその役割、連携方法が述べられる。	1) 利用者にかかわる多職種の役割と連携 2) 看護職の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションや実際の場面の観察、指導者への質問等を行い理解する。
5 家族との連携や支援が述べられる。	1) 家族の役割 2) 家族との連携と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動外学習で施設での学びを共有する。